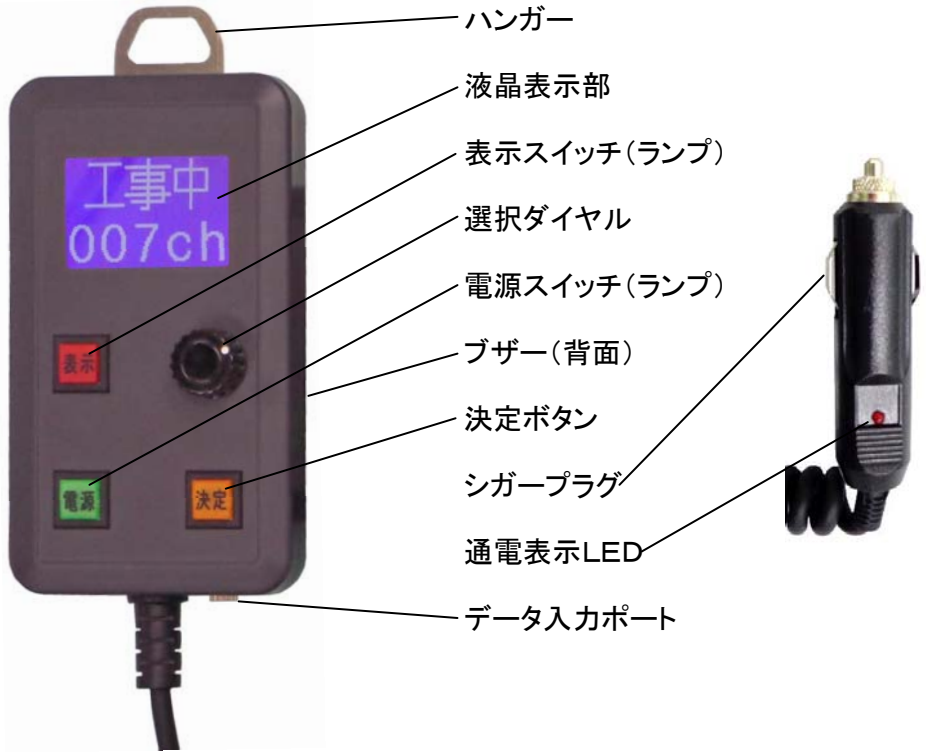
『ブラインド型車載情報板』用リモコン取扱説明書

㈱アイテックス

1　各部の説明



2　使用準備

車のシガーライターにシガープラグをしっかりと差し込み、エンジンを掛けます。

シガープラグの通電表示LEDで通電を確認します。

3　電源ON

図①　電源スイッチを長押しするとブザーがピッと鳴って電源ランプが点滅を始め、液晶表示器に『準備中』と表示されます。

この間に表示制御部とデータの照合などのチェックを行い、チェックが完了するとブザーがピッと鳴って電源ランプが点灯に切換わり、液晶表示器に現在選択されているチャンネル番号と、内容が表示されて運用可能状態となります。

図②　このときLED表示はOFFで液晶表示の下半分チャンネル表示が反転しており、この状態はLED表示器に表示されていないことを意味します。

4　チャンネルの選択

図③　選択ダイヤルを回すと液晶表示器の上半分が反転表示してチャンネルが切換わり、目的のチャンネルを選択して決定ボタンを押すとブザーがピッと鳴って通信を行い、切替が完了して信号が戻るとピッと鳴って反転していた表示が元に戻ります。

（チャンネルの選択中に液晶表示器の上半分が反転表示している場合表示スイッチは無効で、決定ボタンで確定して反転表示が元に戻ると有効となります。）

（ダイヤルを回してチャンネルを選択しても12秒の間に決定ボタンが押されないと元のチャンネル状態に戻ります。）

注意　LED表示器が点灯中でもチャンネルの切替は可能で、別のチャンネルを選択して決定ボタンを押すと点灯状態のまま切換わります。
点灯状態で切り替える場合は、決定ボタンを押す前に表示内容に間違えの無いことを、液晶表示器で良く確認してから行ってください。

5　表示の点灯

図④　表示スイッチを押すとブザーがピッと鳴り、LED表示器の点灯が確認されるともう一度ピッと鳴って、表示ランプの点灯と同時にチャンネル番号の反転表示が元に戻り、LED表示器に正しく表示されたことを示します。
（周囲が明るい状態ではリモコンの電源ランプの点灯が確認しにくいため、電源ランプと液晶表示器の反転表示を併用しています。）

6　表示の消灯

LED表示が点灯常態で表示スイッチを押すとブザーがピッと鳴り、LED表示器の消灯が確認されるともう一度ピッと鳴って、表示ランプの消灯と同時にチャンネル番号表示部分が反転して消灯したことを示します。

7　電源OFF

図⑤　電源ランプが点灯している状態で電源スイッチを長押しすると、ブザーがピッと鳴り液晶表示器に『終了中』と表示されて電源ランプが点滅を開始します。
LED表示部より信号が戻り、OFFしたことを確認してリモコンの電源がOFFします。
（この電源OFF操作はLED表示器の点灯中、消灯中、チャンネルの選択途中とどの状態からでも有効です。）

8　PB（パーキングブレーキ）信号について

パーキングブレーキが掛けられている状態を停車中と判断して動作を行います。

図⑥　パーキングブレーキが解除されている状態で電源をONする操作をすると、『準備中』が消えた後にリモコンの液晶表示器に『停車中に操作してください。』と表示され、ブザーがピー、ピーと断続して警告します。
この場合にはパーキングブレーキを掛けると正常な動作状態となります。

電源がONしているとき（LEDの点灯／消灯にかかわらず）にパーキングブレーキが解除されると同様に『停車中に操作してください。』と表示され、ブザーがピー、ピーと断続しますがパーキングブレーキを掛けると正常な状態に戻ります。

警告状態が20秒続くと自動的に電源OFF動作に入り電源をOFFして終了しますので、再度電源を入れる場合はパーキングブレーキを掛けた状態で開始します。

9　エラー、他

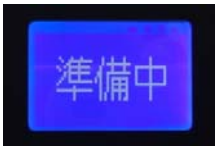
図⑦　『表示器エラー』と表示される場合は表示制御部側と通信が確立されていない状態で、表示制御部側の電源がOFFしている場合などが考えられます。

図⑧　『データーエラー』表示の場合はリモコン側と表示制御部側の表示データが不一致の場合で、片方だけデータを書き換えたり修正した場合などに発生します。

運用中にエンジンを切るなどして電源が切れた状態でも装置は初期状態に戻るため、再度エンジンを掛けて電源を入れることで正常に動作を開始します。

10　液晶表示器の表示パターン

図①　起動中



図②　消灯中

図③　選択中

図④　点灯中

図⑤　終了中

図⑥　PBエラー

図⑦　表示器エラー

図⑧　データエラー

『ブラインド型車載情報板』取付け要領

1　取付け車両の注意事項

本製品は車両の後部ゲートの内側に取付けてガラスを通して後方向けに表示するため、ガラスの透視範囲が幅870mm、高さ370mm以上あることを確認してください。

車両の後部ガラスを外から見たときには大きく見えますが、内側より外周がマスクされており実際の透視できる範囲はかなり狭くなっています。

後部ガラスにスモークフィルム等が張られている場合は、光の透過率が落ちるために実際の明るさよりも暗くなります。

後部ガラスが垂直に近いワンボックスタイプへの取り付けが望ましく、セダンタイプのような後部ガラスが極端に傾斜している車両への取り付けは不向きです。

2　LED表示板の取付け

付属の自在取付金具により後部ガラスの上下金属部分にタッピングビスで固定しま

取付金具は上下方向の伸縮や先端部の角度調整が可能ですが、付属金具では対応しきれない場合は弊社営業までお問い合わせください。

接続ケーブルは後部ゲートの開閉時でも無理が掛からないように固定し、表示制御部のコネクタに接続します。

3　表示制御部の取付け

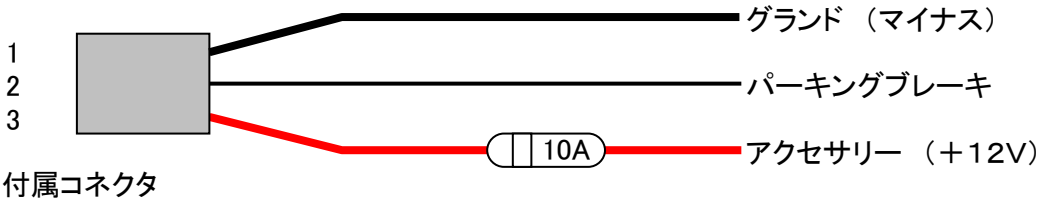
表示部より長さ1．5mの接続用コネクタケーブルが出ており、このケーブルの届く範囲にタッピングビスでしっかり固定してください。

制御部の取付け方向に制限は無くどの方向に取付けてもかまいませんが、データーの入力コネクタに付属のデータ入力ケーブルが接続できるように取付けてください。

4　コネクタの接続

表示部からでいるケーブルをコネクタに差し込み、しっかりと締付けます。

電源等は付属のケーブルで下記のように接続します。



1番ピンは＃1．75以上のケーブルを使用してバッテリーのマイナスに接続します。

2番ピンはパーキングブレーキが掛かっているときにグランド（マイナス）に繋がるように＃0．5以上のケーブルで接続します。

3番ピンは10Aのヒューズを通してバッテリーのプラスに＃1．75以上のケーブルで接続し、エンジンが掛かっていなくてもDC12Vが供給されるようにします。

5　リモコンの設置

リモコンは運転席のシガーライターにプラグを差し込んで電源に接続し、付属のリモコンハンガーを運転の支障にならない位置に取付けてリモコンを掛けて使用します。

6　動作確認

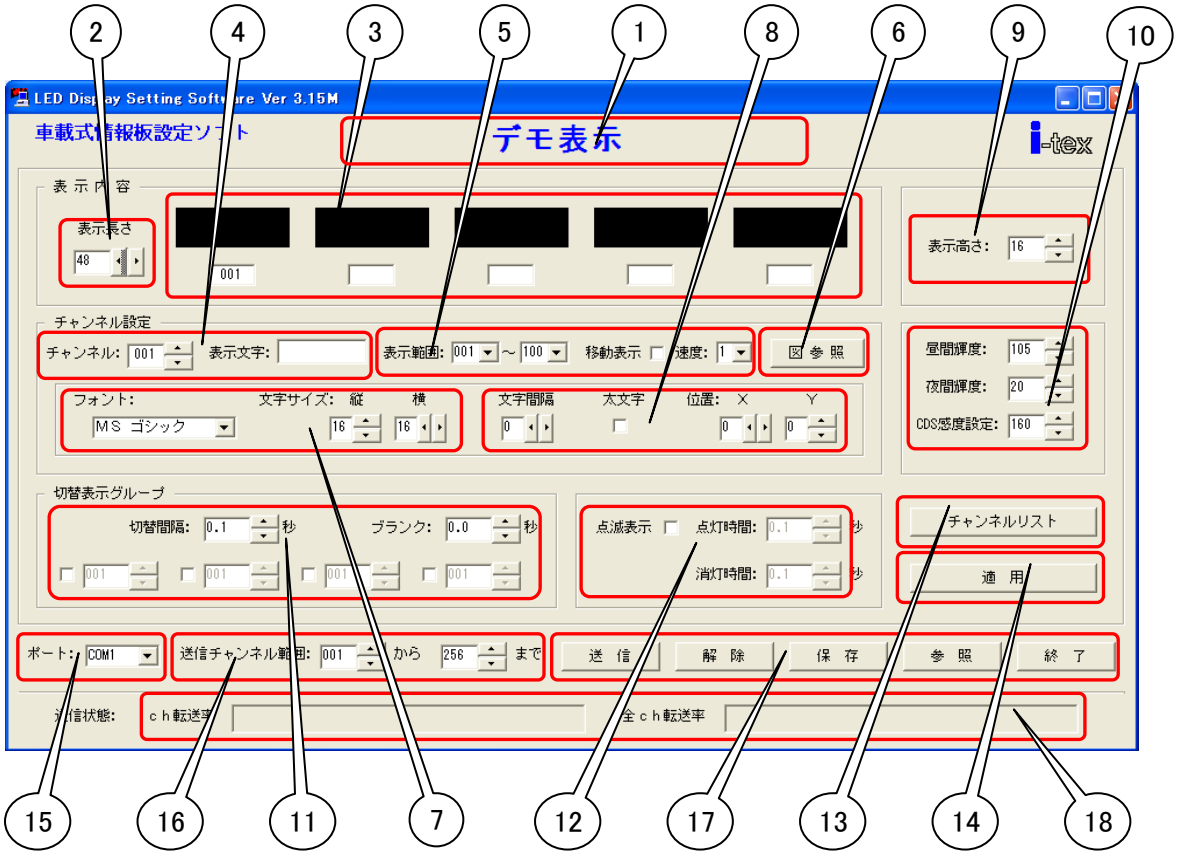
別紙『ブラインド式車載情報板』用リモコン取扱説明書により動作の確認を行います。

7　注意事項

本製品は停車中の運用を前提としておりますので、コネクタの2番ピンは必ずパーキングブレーキに接続してご使用ください。
尚、走行中のご使用に関しては弊社までお問い合わせください。

ブラインド型車載情報板設定ソフト使用手順

1　設定画面　LED Display Setting Softwere Ver 3.15M



① 画面上に展開しているデータのファイル名を表示。

② 情報板の横ドット数を設定し、通常は64に設定。

③ 実際に表示されるグループのデータがすべて表示される。

④ 編集するchを選択し、〔表示文字〕欄にテキスト文字を入力する。

⑤ 表示で指定できる表示範囲を設定し、スクロール表示時の設定をする。

⑥ テキストの代わりにBitmapを使用する。

⑦ フォントと文字サイズをドット単位で設定する。（MSゴシックを使用）

⑧ 文字間隔、太文字、表示位置を設定する。

⑨ 文字の高さを設定し、通常は16に設定。

⑩ 輝度、CDS感度を設定する。

⑪ グループを構成し、切替間隔、ブランクを設定する。

⑫ 点滅表示有無、点灯／消灯時間の設定を行う。

⑬ 設定されているデータをリストで表示、印刷が可能。

⑭ テキスト、Bitmapの入力やパラメータを設定後に確定させる。

⑮ USBポートを設定し、ケーブルを接続してソフトを立ち上げると自動的に設定される。

⑯ データの転送範囲を設定する。（すべて送信すると時間が掛かる）

⑰ データ送信、送信解除、データの保存、データの参照、ソフト終了の各ボタン。

⑱ データ送信の進捗状況を表示。

2 データの設定

切換表示の設定方法

例として **この先　事 故　通行止**　を2CHに設定する場合を説明する。

まず④に**002CH**を設定してテキストで**この先**と入力して、このチャンネルを親として⑭の”**適用**”すると③の一番左の窓に表示される。

次に便宜上051CHに **事 故** を、 111CHに **通行止** を同じ方法で子チャンネルとして設定する。

④で002CHに戻り、⑪を使ってグループ関係を設定する。
方法は下の4つある設定窓の左端のチェックボックスをチェックしてその右窓に051を設定し、次に右隣にもチェックして111を設定する。
これで002CHの **この先** を親として 051CHの **事 故** 111CHの **通行止** が親子として関連付けられた事になる。

次に上の”**切換間隔**”、”**ブランク**”を使って表示タイミングを設定する。
”**切換間隔**”は各チャンネルが表示している時間で”**ブランク**”はチャンネルが切り替わる時に消灯する時間を設定し、0を設定すればブランク無しになりすぐに次のチャンネルに切り替わる。

例えば”**切換間隔**”に1.0Sec、”**タイミング**”に0.4Secを設定すると、この場合の実際の表示は **この先** 1.0Sec表示、**ブランク**0.4Sec、**事故** 1.0Sec表示、**ブランク**0.4Sec、**通行止** 1.0Sec表示、**ブランク**0.4Secとなり、これを繰り返して表示する。
尚、051CHや111CHのように子として登録されたチャンネルデータは別のチャンネルを親として何度でも使用することができる。

これら各チャンネルのデータを設定した場合は必ず”**適用**”により確定させないと反映されない。

この場④の”チャンネル”を一旦別のチャンネルに設定してから再度戻して002にすると③の窓に **この先　事故　通行止**　関連付けされた表示となる。

移動表示の設定方法

移動表示の場合は切換え表示と同様に設定するが⑪の切替間隔やブランクは設定しないで、⑤の”**移動表示**”にチェックして”**速度**”を設定すると親の後に子として設定したチャンネルの文字が繋がってスクロール表示される。　（速度は6、7、8あたりが適当）
この場合、1チャンネル3文字X5チャンネルで最大15文字を移動表示できる。

点滅表示の設定

点滅表示させる場合は切換表示と同様に任意のチャンネルに表示データを設定し、⑫の”点滅表示”にチェックを入れて点灯時間と消灯時間を0.1Sec単位で設定する。
点滅動作は通常そのチャンネルだけを点滅させながら表示するが、親、子のどちらにおいても有効のため、併用すると**点滅間隔**と⑩の”**切換間隔**”は干渉するので注意して設定する。

表示範囲の設定

リモコンにより設定できる範囲を指定するとところで、通常親チャンネルを設定した範囲を表示範囲としておくと、リモコンで表示切替したときに子チャンネルを表示してしまうことが無い。

最大、最小輝度、CDS感度の設定

通常は最大輝度60、最小輝度10、CDS感度190に設定すれば良い。

データの保存と参照

⑮の”**保存**”を使って作ったデータに名前をつけて保存することが出来、保存されると①にファイル名が表示される。
また、”**参照**”を使用して保存してあるデータをソフト上に展開し、修正や情報板への書込みが行

チャンネルリスト

⑬の”**チャンネルリスト**”により001～255CHの全ての表示内容、親子関係が一覧表として確認でき、プリントアウトすることも出来る。
表示内容はテキストデータ、Bitmapデータのどちらも表示される。

3 データの送信

作ったデータは必ず名前を付けて保存し、下記の手順により情報板に転送する。

1 ⑮のUSBポートを設定する。
（USBケーブルをPCに差し込んでからソフトを立ち上げると自動的にCOMポートが選択される）

2 ⑯で転送CHの範囲を指定する。
（CH範囲が離れている場合は何回かに分けて何度転送しても良く、転送したチャンネルだけが書き換わる）

3 転送中は⑰のインジケータに転送状況が表示され、情報板は表示が消灯して転送が完了すると新しいデータを表示開始する。

4 表示範囲、輝度などの各チャンネルに共通の設定を変更する場合は最低でもどこか1CHを送信すれば共通の設定値は転送される。
（表示グループや点灯タイミングなどは変更したチャンネル全てを転送する）

4 その他

1～50chや1～100chを親として設定し、それ以降を子として設定すると使用しやすい。

付属の”表示データ編集フォーム”を使用してデータを作成してから設定すると、複雑な組合せも整理されて表示内容をプリントアウトするだけで一覧表も簡単に作成できる。